

二人のラジオ体操

◆川崎市幸区 午前6時半
前、夢見ヶ崎公園の広場にラジオ体操をする人たちが三々五々集まって来た。その一人、小倉に住む小倉世津子さん(72)が、自分の思いを書いた段ボール紙を背負って「ソーレ、ソーレ」と声を出しながら広場を一周した。体操前の恒例の行動だ。毎日違つそつで、私が訪れた日は約束は必ず守る」と書いてあった。

小倉さんは60歳になった時、年を取っても元気に活動できるように、しっかりと動けるうちに体力をつけようと考えた。その時、広場のラジオ体操を知った。台風の時などを除いてほぼ毎日通い、もう12年になる。

もっと楽しんでほしい、6年ほど前から、こうありたいという思い

ラジオ体操の達人

「ラジオ体操の達人」として書き、改めて新聞に貼って体操前に走り始めた。「健康な体を保てるのは体操のおかげ」という思いを込めたそうだ。

体操は、別に会を作っているわけではないが、多くの人が集まっている。その一人、佐久間五郎さん(80)は「今日は94人。もっと集まってくれたらいい」と話す。体操で号令をかけていた小倉さんも「来れば、健康に

なれる。医学要らさず」と続けた。(小川良子)

毎週水曜日に掲載するこの欄は、女性読者が「タウンリポーター」として取材した記事で構成しています。タウンリポーターの新規登録を随時受け付けます。問い合わせ・申し込みは、読売新聞横浜支局(☎045・201・7992、ファクス201・8341)へ。



ラジオ体操をする小倉さん。足元には、この日の思いを書いた紙が